



山崎晴太郎
SEITARO YAMAZAKI
1982-
TOKYO

横浜出身。立教大学卒。京都芸術大学大学院芸術修士。2008年に株式会社セイタロウデザインを設立。企業のデザインブランディングやプロモーション設計を中心に、グラフィック・WEB・空間・プロダクトと多様なチャネルのアートディレクション・デザインを手がける。各種団体主催のデザイン賞審査委員や省庁の有識者会議検討委員を歴任。FMヨコハマ「文化百貨店（毎週日曜2430-2500）」メインパーソナリティ。東京2020組織委員会スポーツプレゼンテーション・クリエイティブアドバイザー。デザイン・水墨画・いけばななどの経験を生かし、2018年よりアーティストとしての活動を開始。国内外で作品を発表している。

教育

2006-立教大学社会学部現代文化学科写真専攻
2016-京都造形芸術大学大学院修了（芸術修士）

個展

2021-余白のための楽譜 #01 STEVE REICH COUNTERPOINT/ KIWA
2019-TAYUTAI / 那覇空港国際ターミナル
UNIT FOR Y-AXIS / Y 軸のための単位 / J-COLLABO NewYork
2018-In Praise of Shadows / 陰翳礼讃 / MONO JAPAN 2018, Amsterdam

グループ展

2021-YICCA 2021 Final exhibition / Hernandez art gallery, Milan
2020-RESONANCE / Camden Image Gallery, London
2019-Nameless Portrait / 名前のないポートレート / 長崎オランダ村
2018-UNSAMBLE CAST / J-COLLABO, NewYork

賞

2021-YICCA 2021 WINNING ARTIST (2nd place) / YICCA, Italy
YICCA SELECTED 18 ARTIST / YICCA, Italy
PREMIO COMBAT PRIZE 2021 RECOMMENDED ARTIST
2020-The winner of 14th Arte Laguna Prize for an artistic residency at Espronceda / BARCELONA, SPAIN
2018-Annual Group Exhibition And Showcase 2018 Winner / J-COLLABO, NewYork

CONTACT s@seiyamazaki.com

使われなかった時間が流れる、或る風景の記憶

山崎晴太郎はデザイナーとして15年のキャリアをもち、その後アーティストとしての作品制作を始めた。グラフィック、オンスクリーン、プロダクト、空間設計と、領域を横断しながらクリエイションを行ってきた。

「この世界における本質的な美とは何か」

それが、活動の根源的なテーマであり、「相対性の中にある新たな絶対」を探し作品を発表し続けている。社会の中にある、一見絶対的だと思われる概念（例えば、『UNIT FOR Y-AXIS / Y軸のための単位』の場合は、この世界を構成しているX軸・Y軸・Z軸は、等価であるという概念。『余白のための楽譜』においては、五線譜に記された音楽の世界、インスタレーション作品『In Praise of Shadow』の場合は、文字は定着しなければいけないという概念）をずらして、本質的に絶対的なものをあぶり出そうとしている。それらは相対性の中に埋没してしまった「使われなかった時間」である。

2

「使われなかった時間」をあらためて描き出す際、その背景には常に「自然」の存在がある。日本には古来から八百万の神を信仰する概念がある。彼は日本に生まれ育った中で、自然の中にどこか畏怖を感じ、それを絶対的な美の概念と重ね合わせてきた。自身のコントロールが効かない絶対的な存在として自然を捉えながらも、固有の物語が万物に潜在的にあると信じ、生け花や水墨画の鍛錬を通して、自然との関係性、自然の描きかたについて追求し続けてきた。

そのため、作品制作において偶発的な自然の力を受け止めようとする。これもまた新たな時間を描くための一つのプロセスであり、作品の中に自身のコントロールが効かない偶然性を取りこむ行為である。自然や偶発性の力を借りながら、常に相対を疑い、その中から新たな絶対を引き出すことで、この世界に「使われなかった時間」を描き出そうとしている。

